

IAIS 市中協議文書 「IIM 評価手法の見直し」に意見提出

日本損害保険協会(会長：白川 儀一)は、保険監督者国際機構(IAIS) (※1) が12月9日から2月6日に市中協議に付した「個別保険会社モニタリング (IIM: Individual Insurer Monitoring) 評価手法の見直し」に対する意見を提出しました。

1. 本文書の背景

- ・ IAISは、グローバルモニタリング演習 (GME: Global Monitoring Exercise) におけるリスク評価の3年ごとの見直し等を通して、保険におけるシステミックリスクの包括的な枠組みを引き続き強化していくこととしている。今般、本取り組みを支援する目的で、個々の保険者のシステミックリスクのスコアを計算するために用いられる IIM の評価手法に関する市中協議が実施された。
- ・ 寄せられた意見は、IIM 評価手法の最終化において考慮され、2023年に公表予定の GME 文書に反映される予定である。

2. 損保協会の意見の概要

- ・ IIM データ収集により保険セクターの持つシステミックリスクを把握する趣旨は理解するが、保険セクターのシステミックリスク量は他の金融セクターと比べて相対的に少ない。次回のデータ収集において、現行仕様以上のデータ収集項目の細分化、流動性リスク関連データの拡充、気候変動リスク関連データの追加等によって、保険者が享受できるメリットよりも、データ報告負担が更に増加することに懸念を持っている。今回の IIM 評価手法の見直しにあたっては、保険会社への全体的な負担増加を考慮したうえで、真に必要なデータへの厳選や公表データの活用等を改めてご検討頂きたい。
- ・ データの中にはグループベースでの集計のロードが大きい、もしくはタイムリーな入手が困難なものもある。例えば、連結決算の勘定科目にない粒度のデータについては、子会社からデータ収集し、それらを集約して作成する必要がある上に、求められるデータが存在するかの確認もあり、データの集計作業にはロードが生じる。IIM データ収集全体における原則として、ベストエフォートベースでの対応が認められること、およびプロポーシヨナリティが確保されることを改めて確認したい。

当協会は、IAIS における国際保険監督基準策定の議論に積極的に参加しており、今後も市中協議等に際して本邦業界の意見を表明していきます。

(※1) 保険監督者国際機構 (IAIS)

1994年に設立され、世界200カ国・地域以上の保険監督当局(メンバー)で構成される組織。

主な活動は以下のとおり。

- 1) 保険監督当局間の協力の促進
- 2) 保険監督・規制に関する国際基準の策定および導入促進
- 3) メンバー国への教育訓練の実施
- 4) 金融セクターの他業種の規制者等との協力

※日本からは金融庁がメンバーとして参加しており、当協会もステークホルダーとして積極的に関与する方針を掲げている。

市中協議文書の原文は、以下でご覧いただけます。

<https://www.iaisweb.org/2022/12/public-consultation-of-the-review-of-the-iim-assessment-methodology/>

セクション	質問 (仮訳)	和文意見	英文意見
2.1.2 レベル 3 資産に対するモニタリングの強化	<ul style="list-style-type: none"> • 異なるタイプのレベル3資産を監視するために、どの (基礎となる) データ列が必要か。 o 可能であれば、これらの列の技術仕様も提示していただきたい。 • 取得原価で保有する、あるいは他の非フェアバリュー法で評価する、流動性の低い/評価困難な資産をモニターするために、どの (基礎となる) データ列が必要であるか。 o 可能であれば、これらの列の技術仕様も提示していただきたい。 • レベル 3 資産の指標について、他にどのような改良が可能か。 	<p>レベル 3 資産のモニタリングで参照するデータ行は、現行の仕様が妥当と考える。保険セクター全体の傾向としてレベル 3 資産のスコアは高まっており、モニタリングの粒度を高める必要性は理解する。しかし詳細な分類でのグループベースのデータ収集は集計のロードが大きく、保険会社への更なる負担増加に繋がる可能性があり、またフィージビリティの観点から、すべての保険会社が詳細なデータを提供できるとは限らないと考える。</p> <p>一方、各データの算出定義の明確化、比較可能性の確保、および各保険グループが行う判断の要素の極小化やデータ報告のための追加的負担の抑制といった観点で、既存の IFRS 第 13 号のガイダンスと整合した仕様を維持することを支持する。</p>	<p>We believe that the current specification is appropriate for the data rows referenced in the monitoring of Level 3 assets. We understand the need for greater granularity in monitoring, as the overall trend in the insurance sector is toward higher scores for Level 3 assets. However, group-based data collection with detailed classifications would be heavily loaded with aggregation and could lead to further increased burden on insurers. In addition, from a feasibility perspective, we believe that not all insurers would be able to provide detailed data.</p> <p>On the other hand, we support maintaining specifications consistent with the existing guidance in IFRS 13, in terms of clarifying the definition in the calculation of each data item, ensuring comparability, and minimizing the decision-making factors to be performed by each insurance group and the additional burden of data reporting.</p>
2.1.3 (クロスボーダー) 再保険のモ	<ul style="list-style-type: none"> • 1) クロスボーダー再保険のエクスポージャー (出再、引受)、(2) 特定の保険者または法域におけるクロスボーダー再保険の集中リスクをより適 	<p>システミックリスクを把握する観点からは、(1) のように再保険取引がクロスボーダーか否かという基準でのデータ収集よりも、(2) のように特</p>	<p>From the perspective of understanding systemic risk, it would be useful to understand whether they are concentrated with a particular insurer or in a particular</p>

<p>ニタリングの強化</p>	<p>切に把握するには、どの（基礎）データ行が必要であらうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 可能であれば、これらの列の技術仕様も提示していただきたい。 • どのような再保険付帯指標の可能性があるのか？ ○ 可能であれば、データ列と技術仕様も提供すること • 金融資産・負債内指標のもとで再保険エクスポージャーをより良く捕捉するために、他にどのような改良が可能か。 ○ 可能であれば、これらの列の技術仕様も提示していただきたい。 	<p>定の保険者または法域に集中しているかどうかを把握することが有用であると考えられる。</p>	<p>jurisdiction, as in (2) the concentration risk of cross-border reinsurance in certain insurers or jurisdictions, rather than collect data on the basis of whether reinsurance transactions are cross-border or not, as in “(1) cross-border reinsurance exposures (ceded and assumed)”.</p>
<p>2.1.4 デリバティブ指標の精緻化</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 異なる種類のデリバティブを監視するために、どの（基礎となる）データ列が必要か？ ○ 可能であれば、これらの列の技術仕様も提示していただきたい。 • デリバティブ・エクスポージャーとその潜在的な「外向き」リスクを監視するために、想定元本総額に加えて、他にどのような変数が調べられるか？ 	<ul style="list-style-type: none"> • 更なるデータの追加は特に不要と考える。 • システミックリスクの源泉となり得るエクスポージャーの推移を把握するには、想定元本総額のモニタリングのみで十分だと考える。 	<p>We do not believe that additional data is necessary.</p> <p>We believe that monitoring gross notional amounts alone is sufficient to understand transitions in exposures that could be a factor of systemic risk.</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 中央清算型の店頭デリバティブと二者間決済型のデリバティブのリスクの違いについて、システミックリスクをどのように評価しているか？ デリバティブやレポのエクスポージャーのヘッジレバレッジを監視すべきか？ <ul style="list-style-type: none"> 「はい」の場合、どのように？ 	<ul style="list-style-type: none"> 一般論として中央清算型は二者間型に比べてシステミックリスクの懸念が小さいものと考えているが、前述のとおり、システミックリスクの源泉となり得るエクスポージャの把握の観点では、内訳情報までの確認は必要ないとする。 前述の通り、想定元本総額のモニタリングが十分機能すると考えており、ヘッジレバレッジのモニタリングは不要とする。 	<p>In general, we believe that OTC derivatives that are centrally cleared is less of a systemic risk concern than bilateral derivatives. However, from the perspective of understanding exposures that could be a factor of systemic risk, it is not necessary to check the breakdown.</p> <p>As mentioned above, we believe that monitoring gross notional amounts will work sufficiently well, which means that the monitoring of hedging leverage is unnecessary.</p>
<p>2.1.5 短期資金調達指標の精緻化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 短期資金調達の潜在的な対外的リスクを監視するためには、どの（基礎）データ行が必要か。 <ul style="list-style-type: none"> 可能であれば、これらの列の技術仕様も提示していただきたい。 短期資金調達の指標に、他にどのような改良が可能か？ 	<p>現行においても細かい粒度でのデータ収集が行われており、ここから新たにデータ行を増やす必要はないと考えている。</p>	<p>We do not believe it is necessary to add new data rows, as detailed data collection is already underway.</p>
<p>2.1.6 財務保証に関する指標を削除</p>	<p>金融保証を指標から外すことについて、何か意見はあるか？</p>	<p>この取り扱いに賛成する。</p>	<p>We agree with this treatment as stated in the paper.</p>
<p>2.1.7 その他、指標やIIM データ</p>	<ul style="list-style-type: none"> その他、各指標について意見はあるか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 本コンサルテーションには総論コメントを記載する欄がないため、ここに総論を記載させていただく。 	<p>Since there is no space in this consultation for general comments, we will include them below:</p>

<p>テンプレートに関するご意見・ご感想など</p>	<p>• IIM データテンプレート（付属書 1）の全体的な粒度について、どのように考えるか？</p>	<p>・意見表明の機会に感謝する。IIM データ収集により保険セクターの持つシステミックリスクを把握する趣旨については理解するが、保険セクターが持つシステミックリスク量は他の金融セクターと比べて相対的に少ない。これまでも優先度の低い項目の見直し等を実施してきていると理解しているが、次回のデータ収集において、現行仕様以上のデータ収集項目の細分化、流動性リスク関連データの拡充、気候変動リスク関連データの追加などによって、保険者が享受できるメリットよりもデータ報告負担が更に増加することに懸念を持っている。今回の IIM 評価手法の見直しにあたっては、保険会社への全体的な負担増加を考慮したうえで、真に必要なデータへの厳選や公表データの活用等を改めてご検討頂きたい。データの中にはグループベースでの集計のロードが大きい、もしくはタイムリーな入手が困難なものもある。例えば、連結決算の勘定科目にない粒度のデータについては、子会社からデータ収集し、それらを集約して作成する必要がある上に、求められるデータが存在するかの確認もあり、データの集計作業にはロードが生じる。IIM データ収集全体における原則として、ベストエフォートベースでの対応が認められること、およびプロポーショナルティが確保されることを改めて確認したい。</p>	<p>We appreciate the opportunity to express our views. We understand the importance to capture the systemic risks in the insurance sector through the IIM data collection. However we believe that the systemic risks of the insurance sector are smaller than the other finance sectors. We understand that the IAIS has conducted reviews of low-priority items in the past. However, we have concerns about further increases in the data reporting burden, rather than benefits, on insurers in the next round of data collection, including more granular items on the data collection than the current specification, the expansion of liquidity risk-related data and the addition of climate change risk-related data. In reviewing the IIM methodology this time, we would like to ask the IAIS to carefully select data that is truly necessary and to consider the use of publicly available data, taking into account the overall increase in the burden on insurers. Some data are burdensome to compile on a group basis or difficult to obtain at the appropriate time. For example, for granular data that is not included in consolidated accounts, it is</p>
----------------------------	---	--	--

		<p>・技術仕様のうち"3 Global Monitoring Exercise – Interplays with Sector-wide Monitoring"に係るデータは、IIM スコアリング指標に関係しない項目であり、引き続きベストエフォートベースでの報告が認められることを支持する。</p> <p>・"Row 53: Current Liquidity Position"に関して、現行仕様ではグループベースの流動性指標の計算を行っていない場合には"NA"と回答することとなっているが、引き続きこの仕様を支持したい。</p> <p>・流動性リスクのモニタリング項目が大きく増加する見込みとなっているが、保険セクターの流動性リスクが銀行セクターに比べて小さいこ</p>	<p>necessary to firstly check whether the required data exists, collect it from subsidiaries, consolidate it, and create other data, all of which amounts to a great deal of data aggregation work. Therefore, we would like to reiterate that the overall principle of IIM data collection should be on a best-effort basis and that proportionality should be ensured.</p> <p>The data for "3 Global Monitoring Exercise - Interplays with Sector-wide Monitoring" in the technical specification is not relevant to the IIM scoring index, and therefore, we support the continued approval of reporting on a best-effort basis.</p> <p>Regarding "Row 53: Current Liquidity Position", under the current specification, if the liquidity indicator is not calculated on a group basis, the response should be "NA", and we continue to support this specification.</p> <p>Although the number of items to be monitored for liquidity risk is expected to increase significantly, we would like</p>
--	--	---	--

		と等を踏まえて、Row 56 および Row 57 の CPA に関するデータ収集等に関する仕様を今後見直し・簡素化することを検討いただきたい。	reviewing and simplifying the specifications for CPA (Company Projection Approach) data collection on Row 56 and Row 57 to be considered in the future, given that the liquidity risk in the insurance sector is smaller than in the banking sector.
2.2 インディケーターの比重	・インディケーターの比重について何か意見はあるか？	金融保証インディケーターの比重をその他 13 個のインディケーターの構成割合に基づいて加重平均し上乘せすることは合理的であると考えられる。	As described, it is considered reasonable to reweigh the financial guarantees indicator based on the composition ratio of the other 13 indicators.
2.3 保険会社プールの選定基準	・保険会社プールの選定基準について何か意見はあるか？	現在の基準を変更する必要はないと考えられる。	No change to the current criteria is considered necessary.
2.4.1 参加保険会社への報告:参加保険会社レポート (PIRs)	・PIRs について何か意見はあるか？	現状の PIR は、データ提供したボランティアグループ会社全体における自社グループの位置づけを示しているが、ボランティアグループ会社全体を生保寄りのグループ会社 (Predominant Life insurers)、損保寄りのグループ会社 (Predominant Non-life insurers)、生損保複合のグループ会社 (Composite insurers) に分類し、そのグループ会社間における自社グループの位置づけを示すことを検討いただきたい。	The current PIRs shows the position of the company's group within the overall group companies that provide data. We would like the IAIS to consider dividing the overall group companies into the following three categories as mentioned in the ICS, and indicating the position of each company within that group companies: - Predominant Life insurers; - Predominant Non-life insurers; and - Composite insurers
2.4.2 公への報告:世界	・GIMAR について何か意見はあるか？	・2.4.1 への回答同様、GIMAR における IIM 分析結果についても、生保寄りグループ会社	Similar to our comments on 2.4.1, please consider classifying the results of IIM

<p>的な保険市場レポート (GIMAR)</p>	<p>(Predominant Life insurers)、損保寄りグループ会社 (Predominant Non-life insurers)、生損保複合のグループ会社 (Composite insurers) に分類し、分類毎の分析結果を公表することを検討いただきたい。また、ボランティアグループ会社を地域別に分類し、地域分類毎の分析結果を公表することも一案である。</p> <p>・各法域において顕在化している課題の具体的な記述 (UK における LDI 投資の事例や US における PE 事業の生保買収の事例) 等の掘り下げた記述等は有益であり、参考になる。</p>	<p>analysis in GIMAR into Predominant Life insurers, Predominant Non-life insurers, and Composite insurers, and disclose the analysis results for each classification. We would also like to see the analysis results of group companies classified by region.</p> <p>In-depth descriptions of specific issues that have emerged in each jurisdiction (e.g., the LDI investment in the UK and the life insurance acquisition of PE business in the US) would be useful and informative.</p>
---------------------------	---	---

以上